

日本点字事情 かわら版

横浜市立盲学校

点字研究部

2002年3月4日発行 NO.41

文責 道村静江

「日本点字表記法2001年版」改訂内容解説4

7. アルファベットの書き表し方

今回の改訂では、外文字を使ったアルファベットの書き表し方で、今まで不備だった(というよりも、10年前は予想できなかった)次の4項目について新たに説明が追加されました。

(1) 二重大文字の使い方 <表記法 第2章 第3節 9.の後半部 p23 >

ひと続きの文字がすべて大文字の場合は、外文字の直後に二重大文字を続けて書くというのがこれまでのきまりでした。でも、それだけではひと続きの文字の一部でも、後ろに続く文字すべてが大文字であるときに困りました。そこで、その位置に二重大文字を用いて書くことができることになりました。

例：AMeDAS ::::A:::Me:::D:::A:::S ::::A:::Me:::D:::A:::S
NewESA721 ::::New:::ESA:::721

(2) ハイフンを含む場合 <表記法 第2章 第3節 9.【注意2】p23 >

ハイフンで結ばれた二つ以上の略称を、外文字を用いて書き表す場合は、第1つなぎ符::を用いて、その後は改めて外文字を添えて書き表します。(第1つなぎ符はリセット記号で、これを付けると外文字の効力が失われてしまうからです。)

例：MS-DOS ::::MS:::DOS
Win-BES ::::Win:::BES

(3) スラッシュを含む場合 <表記法 第2章 第3節 9.【注意4】p24 >

アルファベットで書かれた略称の間の「/」は「:::」の記号を用いて書き、一つの外文字にアルファベットと記号を続けて書くが、大文字や二重大文字は改めて前置する。(/ は外文字の効力を切らない)

例：DOS/V ::::DOS:::V

(4) 単位の書き方 <表記法 第2章 第3節 12.p25 >

これは従来の書き方と変わりありません。しかし、今回、理科の専門分野では単位記号が変わったので、それと区別するために、一般書の中で使われる単位としてその書き方を取り上げています。2乗・3乗・スラッシュなどが含まれたものも書かれています。小文字・大文字の区別もその通りに書き表します。よく使われるものを確認しておきましょう。

